

平成 25 年 9 月期 第 1 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成 25 年 2 月 7 日

上場会社名 株式会社ドワンゴ 上場取引所 東
 コード番号 3715 URL <http://info.dwango.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 荒木 隆司
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員コーポレート本部長 (氏名) 小松 百合弥 (TEL) 03 (3664) 5477
 四半期報告書提出予定日 平成 25 年 2 月 13 日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成 25 年 9 月期第 1 四半期の連結業績 (平成 24 年 10 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25 年 9 月期第 1 四半期	8,586	△6.0	700	38.1	715	38.9	722	115.1
24 年 9 月期第 1 四半期	9,131	6.3	506	28.6	515	43.8	335	1.4

(注) 包括利益 25 年 9 月期第 1 四半期 726 百万円 (85.2%) 24 年 9 月期第 1 四半期 392 百万円 (15.2%)

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25 年 9 月期第 1 四半期	3,541.91	—
24 年 9 月期第 1 四半期	1,667.57	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1 株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25 年 9 月期第 1 四半期	24,733	18,579	74.9	91,073.25
24 年 9 月期	24,653	18,260	73.9	89,299.35

(参考) 自己資本 25 年 9 月期第 1 四半期 18,533 百万円 24 年 9 月期 18,217 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24 年 9 月期	—	0.00	—	2,000.00	2,000.00
25 年 9 月期	—				
25 年 9 月期(予想)		0.00	—	2,000.00	2,000.00

(注) 1. 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成 25 年 9 月期の連結業績予想 (平成 24 年 10 月 1 日～平成 25 年 9 月 30 日)

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	37,500	3.5	2,000	47.8	2,000	55.9	2,300	—	11,274.01

(注) 1. 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 通期の業績予想の詳細は四半期決算短信 (添付資料) 3 ページ

「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）: 無
新規 — 社 (社名) 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計処理の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年9月期1Q	204,052株	24年9月期	204,052株
② 期末自己株式数	25年9月期1Q	43株	24年9月期	43株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年9月期1Q	204,009株	24年9月期1Q	201,469株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。予想には様々な不確実性が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合がありますので、この業績予想に全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控えてください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
(6) セグメント情報等	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間(平成24年10月1日～平成24年12月31日)における我が国経済は、長引く欧州債務危機や新興国の経済成長の減速、円高の長期化や日中摩擦による生産や輸出の低迷など先行きが不透明な状況で推移いたしました。

当社グループ(当社、連結子会社および持分法適用会社)を取り巻く環境は、スマートフォンの普及が進み、様々なタブレット端末が発売され、通信機能を備えたデバイスの進化と多様化が進んでおります。それに伴い、新たなアプリやサービスが次々と登場し、スマートフォン関連の市場は拡大しております。

さらに、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)、動画配信サービス、電子書籍などの利用も拡大しております。

この様な環境の中、当社グループにおきましては、ネットワークを通じた新しいコミュニケーション手段を提供すべく、ネットワークエンタテインメントサービス・コンテンツを携帯電話、スマートフォン、PC、家庭用ゲームソフト市場などで事業展開してまいりました。

事業セグメント別の業績は以下のとおりであります。

なお、当第1四半期連結累計期間より、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を変更しており、以下の前年同四半期比較については、変更後の事業セグメントの利益又は損失の測定方法により作成した前年同四半期に係る報告セグメントごとの数値で前年同期比較を行っております。

ポータル事業においては、10月からniconicoの視聴画面のバージョンアップや、ニコニコ生放送のトップページ刷新など、より使いやすく改良した新バージョン「Q」のサービスを開始しました。

ニコニコ生放送においては、衆議院議員総選挙に向けて各党に呼びかけた「ネット党首討論会」を開催しました。ネットを通じて誰でも党首討論会を視聴できる環境を提供し、ニコニコ生放送の総来場者数は140万人、55万コメントが書き込まれ、大きな注目を集めました。

さらに、12月にはニコニコチャンネルにてブログやメルマガなどの記事コンテンツを配信する「ブロマガ」がサービス開始から約4ヶ月で有料登録者数が3万人を突破し、ニコニコ静画(電子書籍)では、コミックコンテンツの配信プラットフォームとしては日本最大級となる約3万冊以上の電子書籍コンテンツ配信を開始するなどサービスを拡充しました。

これらの取り組みにより、平成24年12月末には登録会員数3,078万人、様々な特典が受けられる有料の「プレミアム会員」は181万人となりました。

収益面では、「プレミアム会員」が順調に増加しており売上に貢献している他、広告収入やポイント収入なども伸びております。

以上の結果、ポータル事業の売上高は37億82百万円(前年同期比21.1%増)、セグメント利益(営業利益)は7億90百万円(前年同期比208.6%増)となりました。

モバイル事業においては、スマートフォンでiPhone向けに高音質楽曲配信サービス「dwango.jp」を開始しました。これまでスマートフォンではAndroid™OSを搭載した端末のみに対応しておりましたが、これによりiPhone端末でも「dwango.jp」を利用できるようになりました。

さらに、最新シングル楽曲だけでなく、ニコニコ動画の人気ボカロ楽曲など当サービスでしか手に入らない楽曲を充実させ、サービス拡充に取り組んだ他、効果的な広告を展開したことでスマートフォン会員数は堅調に増加しました。

従来の携帯電話端末向けには、引き続き主力となる音楽系サイトの着うた®や着うたフル®を中心にユーザ満足度向上に努めました。しかしながら、スマートフォンへの移行の影響を受け、会員数は大幅に減少しました。

費用面においては、著作権等使用料は想定を下回りましたが、スマートフォン会員獲得のため、積極的に広告宣伝費を投下しました。

以上の結果、モバイル事業の売上高は34億99百万円(前年同期比5.6%減)、セグメント利益(営業利益)は1億6百万円(前年同期比86.5%減)となりました。

ゲーム事業においては、据置型や携帯型ゲーム機の家庭用ゲーム市場は厳しい状況が続いております。その中で、株式会社ポケモンと共同開発いたしましたゲームソフト「ポケモン不思議のダンジョン～マグナゲートと∞迷宮(むげんだいめいきゅう)～」、海外タイトルの国内版「セイントロウザ・サード」が売上に貢献しました。しかしながら、パッケージソフトの自社ブランドタイトル数が前年同期に比べ少なかったことにより売上が減少しました。

また、携帯電話やスマートフォンなどのソーシャルゲームでは、既存タイトルが売上に貢献しました。

以上の結果、ゲーム事業の売上高は9億48百万円(前年同期比48.3%減)、セグメント利益(営業利益)は1億22

百万円（前年同期比31.1%減）となりました。

ライブ事業においては、ニコニコ町会議の番外編やniconicoが文化祭を盛り上げるお手伝いとして「ニコニコ文化祭ツアー2012」を行いました。ライブハウス「ニコファーレ」では、「ネット党首討論会」や「東京都知事選挙公開討論会」のネット連動型公開討論会を開催しました。また、niconico関連のイベントやコンサート、ゲーム系イベントなどを開催した他、各種イベント向けにホールの貸出なども行いました。

以上の結果、ライブ事業の売上高は1億円（前年同期比4.8%減）、セグメント損失（営業損失）は88百万円（前年同期は1億43百万円の損失）となりました。

その他事業においては、主にアニメ分野やniconicoから生まれたコンテンツのCDやDVDなどの音楽出版及び著作権利用料収入が売上に貢献しました。

以上の結果、その他事業の売上高は4億89百万円（前年同期比24.0%減）、セグメント損失（営業損失）は42百万円（前年同期は1億25百万円の損失）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高85億86百万円（前年同期比6.0%減）、営業利益7億円（前年同期比38.1%増）、経常利益7億15百万円（前年同期比38.9%増）、四半期純利益は7億22百万円（前年同期比115.1%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の資産の部の合計は247億33百万円(前連結会計年度末比80百万円増)となりました。流動資産は148億34百万円(前連結会計年度末比80百万円増)となりました。主に現金及び預金の1億52百万円の増加等によります。

固定資産は98億98百万円(前連結会計年度末比0百万円減)となりました。主に無形固定資産のソフトウェアの1億45百万円の増加や有形固定資産の31百万円の減少、のれんの67百万円の減少等によるものです。

当第1四半期連結会計期間末の負債の部の合計は61億53百万円(前連結会計年度末比2億38百万円減)となりました。これは主に未払法人税等の2億78百万円の減少や賞与引当金の2億69百万円の減少等によります。

当第1四半期連結会計期間末の純資産の部の合計は185億79百万円(前連結会計年度末比3億18百万円増)となりました。これは主に利益剰余金の7億35百万円の増加や資本剰余金の4億20百万円の減少等によります。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1億52百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末には63億11百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は9億42百万円（前年同期は91百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益7億10百万円となり、減価償却費3億43百万円を計上したことによります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は3億33百万円（前年同期は5億48百万円の支出）となりました。これは主に有形固定資産の取得により1億79百万円、無形固定資産の取得により2億82百万円支出したことによります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は4億56百万円（前年同期は3億88百万円の支出）となりました。これは主に配当金の支払により4億9百万円支出したことによります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループを取り巻く環境といたしましては、スマートフォンやタブレット型などの高機能携帯端末の普及が拡大し、LTE（3世代携帯電話のデータ通信を高速化した規格）などの大容量・高速データ通信がこれまで以上に利用できることになることで、新たなサービスやコンテンツが登場し、ユーザーニーズも大きく変化していくものと思われまます。同時に、動画配信やSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）関連などがより快適に利用できるようなと考えられます。

このような状況のもと、当社グループにおける各事業におきましては、スマートフォンへの積極的な展開だけでなく、年齢や性別を問わず多種多様なユーザーニーズにいち早く応え、サービス・コンテンツの拡充やユーザービリティの向上はもちろんの事、移り変わりの早いネットワークエンタテインメント業界における斬新なサービスを継続的に提

供出来る様、取り組んでまいります。

ポータル事業におきましては、niconicoにおけるプラットフォームの新機能の開発や既存機能の改良、スマートフォンやタブレット端末など各種デバイスの特長を活かした機能を付加することなどにより、niconicoの新しい使い方の提案をしていきます。また、ニコニコ生放送を中心に、コンテンツ制作の最適化及び強化を図り、niconicoならではのコンテンツ制作を目指します。これらにより、より魅力的で注目されるプラットフォームにすることで、これまで以上にユーザやコンテンツホルダが満足するサービスを提供し、メディアとしての認知度・価値向上に伴う広告収入の増加や、新たな課金サービスの投入などにより、収益の拡大を図ってまいります。

モバイル事業におきましては、高音質楽曲配信サービス「dwango.jp」において、人気楽曲と連動したタイアップ企画投入や効果的なプロモーション、新たなサービスやコンテンツの拡充などにより、スマートフォン会員獲得に向けた積極的な施策を継続的に行ってまいります。

ゲーム事業におきましては、当社グループ会社が開発したシリーズタイトルや、海外タイトルの国内向け販売、他社からの受託開発、優良コンテンツを保有する他社とのソフトの企画・開発などを引き続き行ってまいります。また、スマートフォンなどのプラットフォームを利用したソーシャルゲームにも取り組んでまいります。

ライブ事業につきましては、ニコニコ超会議において、来場したユーザが満足しロイヤリティが高まるイベントとなるように取り組んでまいります。ニコファーレにおいては、コンサートだけではなく多種多様なイベントを開催し、リアルチケットやネットチケットの販売およびniconicoの会員獲得につなげていきます。また、ニコファーレの特色を活かし、イベント施設としても貸し出していきます。

その他の事業におきましては、niconico発コンテンツのCD化やDVD化を行う音楽出版事業などに取り組んでまいります。

なお、平成25年9月期の連結業績見通しにつきましては、当社グループを取り巻く事業環境の変化は早く、それに伴い当社の業績も短期的に大きく変動することも想定されることから通期業績のみを開示することとしております。売上高375億円（前期比3.5%増）、営業利益20億円（前期比48.7%増）、経常利益20億円（前期比55.9%増）、当期純利益23億円（前期は5億6百万円の損失）を見込んでおります。

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

(参考情報)

当第1四半期連結業績

〔売上構成〕

(金額：百万円)

	前第1四半期 (売上比)	当第1四半期 (売上比)	前連結会計年度 (売上比)	当第1四半期の主な変動要因
売上高	9,131	8,586	36,243	
ポータル事業	3,122 (34.2%)	3,782 (44.1%)	13,961 (38.5%)	niconicoのプレミアム会員数が増加したことによります。
モバイル事業	3,708 (40.6%)	3,499 (40.8%)	14,302 (39.5%)	月額会員制サイトの会員数が減少したことによります。
ゲーム事業	1,835 (20.1%)	948 (11.0%)	5,816 (16.0%)	パッケージゲームの売上が減少したことによります。
ライブ事業	105 (1.2%)	100 (1.2%)	653 (1.8%)	ニコファーレの売上が減少したことによります。
その他事業	643 (7.0%)	489 (5.7%)	2,693 (7.4%)	
消去又は全社	△283 (△3.1%)	△233 (△2.7%)	△1,183 (△3.3%)	

〔売上原価主要科目〕

(金額：百万円)

	前第1四半期 (売上比)	当第1四半期 (売上比)	前連結会計年度 (売上比)	当第1四半期の主な変動要因
売上原価	5,515 (60.4%)	4,590 (53.5%)	22,381 (61.8%)	
人件費	1,364 (14.9%)	1,452 (16.9%)	5,829 (16.1%)	開発人員が増加したことによります。
支払手数料	331 (3.6%)	414 (4.8%)	2,067 (5.7%)	niconicoのコンテンツ獲得が増加したことによります。
著作権等使用料	1,226 (13.4%)	1,026 (12.0%)	4,498 (12.4%)	着うた®・着うたフル®のダウンロードが減少したことによります。
外注費	1,537 (16.8%)	828 (9.7%)	5,383 (14.9%)	生放送制作費の減少及びパッケージゲームの販売タイトルが減少したことによります。
通信費	608 (6.7%)	693 (8.1%)	2,605 (7.2%)	niconicoの回線費用が増加したことによります。
その他	813 (8.9%)	626 (7.3%)	3,433 (9.5%)	
たな卸資産の増減	110 (1.2%)	△102 (△1.2%)	15 (0.0%)	開発途中のパッケージゲームのタイトルが増え、仕掛品が増加したことによります。
(他勘定振替)	△476 (△5.2%)	△350 (△4.1%)	△1,451 (△4.0%)	

〔販売費及び一般管理費主要科目〕

(金額：百万円)

	前第1四半期 (売上比)	当第1四半期 (売上比)	前連結会計年度 (売上比)	当第1四半期の主な変動要因
販売費及び 一般管理費	3,108 (34.0%)	3,295 (38.4%)	12,516 (34.5%)	
広告宣伝費	1,040 (11.4%)	1,409 (16.4%)	4,424 (12.2%)	モバイル事業のアフィリエイト広告が増加した ことによります。
人件費	605 (6.6%)	597 (7.0%)	2,464 (6.8%)	
支払手数料	854 (9.4%)	775 (9.0%)	3,375 (9.3%)	業務委託の見直しによる減少。
研究開発費	108 (1.2%)	96 (1.1%)	426 (1.2%)	
その他	499 (5.5%)	416 (4.8%)	1,825 (5.0%)	

※当第1四半期末の従業員数(連結)は、1,009名となり、前第1四半期末より28名増加しており、前連結会計年度末より23名減少しております。

2. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,164,325	6,316,764
受取手形及び売掛金	6,333,152	6,332,471
商品及び製品	31,753	65,128
仕掛品	555,839	632,710
原材料及び貯蔵品	1,968	1,560
その他	1,676,096	1,486,873
貸倒引当金	△8,752	△720
流動資産合計	14,754,383	14,834,788
固定資産		
有形固定資産	2,048,774	2,016,962
無形固定資産		
のれん	1,045,392	977,526
ソフトウェア	2,009,144	2,154,450
その他	28,654	9,618
無形固定資産合計	3,083,191	3,141,595
投資その他の資産		
投資有価証券	3,723,579	3,683,990
その他	1,241,230	1,253,930
貸倒引当金	△198,152	△198,152
投資その他の資産合計	4,766,657	4,739,768
固定資産合計	9,898,623	9,898,327
資産合計	24,653,007	24,733,116
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,920,634	1,813,456
短期借入金	206,416	186,306
未払法人税等	351,049	72,864
賞与引当金	526,837	257,633
ポイント引当金	30,812	40,724
その他	2,967,716	3,415,568
流動負債合計	6,003,466	5,786,553
固定負債		
長期借入金	28,354	3,110
資産除去債務	315,174	316,120
その他	45,188	47,568
固定負債合計	388,716	366,798
負債合計	6,392,182	6,153,351

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,616,302	10,616,302
資本剰余金	9,497,345	9,076,827
利益剰余金	△1,893,765	△1,158,684
自己株式	△5,636	△5,636
株主資本合計	18,214,245	18,528,808
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,726	4,609
為替換算調整勘定	△1,101	356
その他の包括利益累計額合計	3,625	4,965
少数株主持分	42,954	45,989
純資産合計	18,260,824	18,579,764
負債純資産合計	24,653,007	24,733,116

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成23年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)
売上高	9,131,080	8,586,512
売上原価	5,515,513	4,590,801
売上総利益	3,615,566	3,995,710
販売費及び一般管理費	3,108,584	3,295,452
営業利益	506,981	700,258
営業外収益		
受取利息	1,336	394
受取配当金	—	1,750
持分法による投資利益	19,996	2,837
業務受託料	900	4,863
その他	3,761	9,561
営業外収益合計	25,993	19,406
営業外費用		
支払利息	1,475	762
投資事業組合運用損	5,208	2,725
その他	10,988	275
営業外費用合計	17,672	3,763
経常利益	515,302	715,901
特別利益		
関係会社株式売却益	2,100	—
その他	281	—
特別利益合計	2,381	—
特別損失		
固定資産除却損	4,376	—
投資有価証券評価損	36,045	—
ゴルフ会員権評価損	—	5,810
特別損失合計	40,421	5,810
税金等調整前四半期純利益	477,263	710,091
法人税、住民税及び事業税	35,966	72,303
法人税等調整額	76,739	△87,833
法人税等合計	112,706	△15,529
少数株主損益調整前四半期純利益	364,557	725,620
少数株主利益	28,594	3,039
四半期純利益	335,963	722,581

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成23年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	364,557	725,620
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	27,713	△116
為替換算調整勘定	173	1,453
その他の包括利益合計	27,887	1,336
四半期包括利益	392,444	726,957
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	363,847	723,921
少数株主に係る四半期包括利益	28,596	3,035

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成23年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	477,263	710,091
減価償却費	353,839	343,122
のれん償却額	44,393	67,866
固定資産除却損	4,376	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△256,616	△269,203
貸倒引当金の増減額(△は減少)	5,283	△8,031
受取利息及び受取配当金	△1,336	△2,144
支払利息	1,475	762
持分法による投資損益(△は益)	△19,996	△2,837
投資事業組合運用損益(△は益)	5,208	2,725
投資有価証券評価損益(△は益)	36,045	—
ゴルフ会員権評価損	—	5,810
関係会社株式売却損益(△は益)	△2,100	—
売上債権の増減額(△は増加)	△481,376	5,953
たな卸資産の増減額(△は増加)	107,125	△109,839
仕入債務の増減額(△は減少)	240,736	△107,178
未払金の増減額(△は減少)	212,582	237,345
その他	△328,853	397,499
小計	398,049	1,271,940
利息及び配当金の受取額	1,336	21,664
利息の支払額	△1,541	△762
法人税等の支払額	△306,207	△350,488
営業活動によるキャッシュ・フロー	91,635	942,353
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△323,891	△179,684
無形固定資産の取得による支出	△232,855	△282,257
投資有価証券の売却及び償還による収入	—	20,000
関係会社株式の売却による収入	17,100	—
貸付けによる支出	△11,130	—
貸付金の回収による収入	—	125,909
その他	1,970	△17,853
投資活動によるキャッシュ・フロー	△548,806	△333,885
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△150,000	—
短期借入れによる収入	1,160,000	—
長期借入金の返済による支出	△45,354	△45,354
リース債務の返済による支出	△989	△1,229
自己株式の取得による支出	△941,811	—
配当金の支払額	△410,074	△409,446
財務活動によるキャッシュ・フロー	△388,228	△456,029
現金及び現金同等物に係る換算差額	△18	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△845,417	152,438
現金及び現金同等物の期首残高	6,997,631	6,159,325
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,152,214	6,311,764

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

I 前第1四半期連結累計期間(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	ポータル 事業	モバイル 事業	ゲーム 事業	ライブ 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	3,109,089	3,708,013	1,835,327	103,683	8,756,114	374,965	9,131,080	—	9,131,080
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	13,653	245	—	1,745	15,643	268,076	283,720	△283,720	—
計	3,122,742	3,708,258	1,835,327	105,428	8,771,758	643,042	9,414,800	△283,720	9,131,080
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	256,099	785,635	178,321	△143,064	1,076,991	△125,271	951,720	△444,738	506,981

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンテンツ出資等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額

セグメント利益の調整額△444,738千円は、セグメント間取引消去6,968千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△451,706千円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成24年10月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	ポータル 事業	モバイル 事業	ゲーム 事業	ライブ 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	3,661,241	3,499,427	948,366	94,192	8,203,228	383,283	8,586,512	—	8,586,512
セグメント間の内部売上高又は振替高	121,133	276	—	6,181	127,592	105,735	233,327	△233,327	—
計	3,782,374	3,499,704	948,366	100,374	8,330,820	489,018	8,819,839	△233,327	8,586,512
セグメント利益又はセグメント損失(△)	790,343	106,208	122,801	△88,626	930,728	△42,119	888,608	△188,350	700,258

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンテンツ出資等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額

セグメント利益の調整額△188,350千円は、セグメント間取引消去115,655千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△304,005千円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの利益または損失の測定方法の変更)

当社グループでは事業区分を明確化する組織再編を実施しており、業績管理体制の見直しを行いました。それに伴い、のれん償却額につきまして、前連結会計年度まで各報告セグメントに配賦してはいたしましたが、当第1四半期連結累計期間より「ポータル事業」に配賦する方法に変更しております。

この変更により、従来の方によった場合に比べ、当第1四半期連結累計期間の「ポータル事業」のセグメント利益が67,866千円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当社グループでは事業区分を明確化する組織再編を実施しており、業績管理体制の見直しを行いました。それに伴い、従来「その他」に区分していたのれんにつきまして、当第1四半期連結累計期間より「ポータル事業」へ報告セグメントの変更をしております。なお、当該事象による「ポータル事業」ののれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間においては977,526千円であります。